



小網代通信

2017年 12月号 VOL-234

発行：小網代ヨットクラブ

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

2017.12月より電話番号が変わりました

Tel 080-9571-4663

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

今月の内容

- ・連絡事項 編集委員 1ページ
- ・「海外クルージング “世界遺産をめぐるアドリア海クルージング”」
望月 常次(スピリット オブ トキョウ) 2~3ページ

連絡事項(編集委員)

1. < 年末行事報告 その1 > ★アンカー整備が12月2日と3日に行われました。
ご協力していただきました漁協組合とメンバー有志の皆様お疲れ様でした。



↑ 2日間合わせ錨やチェーンの回収量はこの4倍以上ありました。

← 錨やチェーンが続々と海底より見つかり、力を合わせ引き上げました。

★三浦外洋セーリングクラブ主催安全講習会

11月17日(金) 単独無寄港無補給世界一周ヨットレースに参戦された白石康次郎氏から単独長距離航海の安全の考え方や備品、安全確保などのお話を伺いました。



↑ 白石康次郎氏(右から3人目)を囲んで、KYC参加メンバー

2. < 2018年 年初スケジュール >

- ① 1月21日(日) KFR Kコース
② 同日 14時~(予定) KFR2017年後期及び年間表彰と懇親会
(例年の新年会は開催せず、レース表彰式と懇親会を「クラブハウス2階」で開催いたします。)
③ 2月8日(木) KYC定期総会 19:00~ 駐健保会館4階大会議場にて
④ 2月18日(日) KFR (2018年のコーススケジュール発表待ち)

3. < ちょこっと情報 >

小網代通信10月号・11月号に掲載しました児玉萬平氏のファストネットレース参戦記が「舵誌」2018年1月号(12月5日発売)で「わが青春のファストネットレース」として2回にわたり掲載されます。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会12月18日(月)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2017.12月号-1

世界遺産をめぐるアドリア海クルージング

スピット オブ トウキョウ 望月 常次

足かけ3年目にやっと実現できたクルージングだ。メンバーは、飛車角の浦野さん(船長)、宮井さん、辻野さん、スピット オブ トウキョウの佐藤さん、小林さん、佐々木さん、望月の7名。初めにクロアチアのドブロヴニクに入りアドリア海の主要都市を巡るクルージングであった。



航跡図

期間は11月8日(日)から11月22日(日)2週間。巡った街は、ドブロヴニクをスタートとし、コバス、コルキュア島、パクレン島、世界遺産のスプリト、同じく世界遺産のトロギル、ドルベニックベリ島、ビス島とその沖に浮かぶビシュヴォ島、フヴァル島、ラストボ島、ミレット島、シパン島、コバス停泊stonに世界遺産のドブロヴニクだった。

我々がチャーターを依頼したヨットは43FTだったが、オフシーズンに入ったところだったのでアップグレードした47FTのヨットを借りる事ができた。その大きさと設備のすばらしさに驚いた。4バース、おのおのトイレ、それにシャワー設備のある船だ。コクピットの横幅は4.3m程度ある広い船。なんとキッチンの長さは我が家のものより長く、さらに料理をしている後ろを自由に行き来することができた。



47FTのヨット



スプリト宮殿予想図



トロギルの鐘楼の前で

我々のクルージングの目的は、クロアチア美人、ビシュヴォ島の自然美、スプリト、トロギル、ドブロヴニクの3都市の世界遺産とヨーロッパで2番目に長い城壁を持つストンの訪問だ。

初めの驚きは、海水がきれいなこと、水深5mほどの海底がよく見えるほど澄んでいる。海水がきれいな理由はクルージングの最中に次第に分かることになった。

初めの訪問地は半島のほぼ先端部分のコバス。ここはレストランの所有する桟橋に地中海付け(スタンから着岸)する方式だ。ここで船長の出番「レストラン(ガストロマーレ)の2階に美人がいるからあの前に停泊する」のかけ声。そこで、私が着岸を試みるも5回目にしてやっと成功する始末。先が思いやられるスタートだ。お目当ての彼女の名前はアニータ、我々をコバスの散歩に連れて行ってくれた気の良い美人だ。



アニータさん

海にはホンダワラ等の海藻が全く浮いておらずきれいな海が続いていた。海がきれいなのは日本ほど、養分が豊かでないからではないか、クロアチア本土の石灰岩の山肌には、木が少なく、大きな河川が流れ込んでいる事もないので、養分が少ない。

海に沈めてあるロープにも何もついていないことや、途中でたべた地中海料理の蠣もムール貝もやせていたことから、海の養分が少ないとの結論を得た。

さて、次は世界遺産のスプリト、パクレニ島からスプリトに向かう途中沖を見ると我々と同じ、ヨットが約10艇動いているのが見え、クルージングが盛んなことがうかがえた。次の訪問地世界遺産のトロギルを沖から見てスプリトに着艇をする。

スプリトは遺跡とその後の建物が組み合わさってできたような都市だった。地下には過去にあった宮殿と同じ構造を持つ地下街が残っていた。この地下街は、かつては、ゴミ捨て場として使用されておりこれを発掘することで過去の宮殿の全体像が把握できたようである。

次の目的地はトロギル、ただしここはスプリトと近いので船ではなくバスで移動して観光をした。この都市も、外壁を囲まれた都市国家の様相を呈していた。島と本土の間の小さな島の上に作られた城塞国家であった。

次はビス島のコミジャとビシュヴォ島のブルーケーブ観光だ。これまでは島と島間のセーリングだったため、うねりを感じることがなかったが、ドルベニックベリ島からビス島まではかなり距離があり、かつ外洋なのでこの間はうねりを感じずセーリングとなった。コミジャに午前中に着き、なんとかビシュヴォ島に向かう船を見つけて最終のブルーケーブの観光を楽しむことができた。ブルーケーブは太陽の光が海底の砂に反射して洞窟の中が水色に光る洞窟だ。そのため太陽の角度によって観光ができる時間が決まってしまう、見られたのは幸運だった。



ブルーケーブ

次はコバス停泊ストン観光、最初の泊地を再び訪れた。今回は、ストン観光がメインとなる。ストンに向かう海峡は浅く、我々の船では行けないので半島の先に位置するコバスに停泊することにした。コバスからストンまでは2班にわかれて向かった。1班が徒歩で山越え残りはタクシーで移動、徒歩組は途中の教会の廃墟など観光しながら、ストンに向かう。ストンはヨーロッパで2番目に長い城壁を持つ都市である。この城壁はその先の半島を自分の領土として安堵するための壁である。ストンで全員集合して昼食をとり、城塞や城壁を観光してタクシーでコバスに戻った。



ストンの
城壁

2017/10/20



船内での様子

最終帰港地はドブロヴニクで、帆走をメインに楽しむセーリングとなった。ドブロヴニクの旧市街の前を通り過ぎ島を回ってから泊地にもどった。

翌日、最後に世界遺産ドブロヴニクの旧市街の観光を行った。旧市街は、城壁で囲まれており城壁の上を散歩することが可能だ。ここから見える旧市街は、薨のオレンジ色がきれいだが、所々に、生活の香りもする。現在も生きている街であることがうかがえた。最後には、ケーブルカーで山の中腹まで登り旧市街を見下ろし街の全体像を把握した。

還暦をとうに過ぎながら、気のあった仲間との海外クルージング、共に夢を実現しおおいに楽しんだ。